

西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)策定のための調査 事業所・団体へのグループインタビュー 調査結果報告

1 目的

- ・ 本調査は、西東京市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画(第9期)(以降:第9期計画)の策定に当たり、市内で活動する事業所・団体の活動状況や福祉ニーズを把握することで、計画策定に向けた課題・支援策を検討するために実施したものである。
- ・ なお、調査テーマは、第9期計画の高齢者支援策として重要になると考えられた、介護者支援、生活支援、地域における活動・支援の3つのテーマとした。

2 調査概要

(1)調査方法

- ・ テーマごとに、グループインタビュー形式で調査を行った。

(2)調査の対象・日時・会場

| テーマ | 事業所・団体名 | 日時 | 会場 |
|-------------|------------------------|--------------------|------------------|
| 介護者支援 | 西東京ゆとりの会 | 6月29日(木) 14:00~ | 田無庁舎5階 502会議室 |
| | いずみオレンジカフェ | | |
| | 西東京・ワークズまちの縁側「木・々」 | | |
| | オレンジカフェみどりの樹 | | |
| | SOMPO ケア在宅老人ホーム西東京訪問介護 | | |
| | そんぼの家 ひばりが丘 | | |
| 生活支援 | ふれあい碧 | 7月3日(月) 16:00~ | 田無第二庁舎 5階会議室 |
| | ささえあい訪問協力員① | | |
| | NPO 法人サポートハウス年輪 | 7月5日(水) 13:30~ | イングビル3階 第3会議室 |
| | 権利擁護センター「あんしん西東京」 | | |
| | ささえあい訪問協力員② | | |
| | シルバー人材センター | | |
| 地域における活動・支援 | おうちサロンひなた | 7月3日(月) 14:00~ | 田無第二庁舎 5階会議室 |
| | 百歳体操グループ | | |
| | 西東京市高齢者クラブ連合会 如水会 | | |
| | フレイルサポーター | | |
| | 西東京市地域サポート「りんく」 | | |

3 調査項目

- ・ 調査(インタビュー)項目は以下のとおりである。

| テーマ | 調査(インタビュー)項目 |
|-------------|--|
| 介護者支援 | <ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍を経ての西東京市の高齢者・介護者の変化・ 介護者支援として西東京市で今後必要になると考えること・ 今後力を入れていきたいと考えていること・ 市と協働で進めたいこと |
| 生活支援 | <ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍を経ての西東京市の高齢者の変化・ 生活支援として今後西東京市で必要になると考えること・ 今後力を入れていきたいと考えていること・ 市と協働で進めたいこと |
| 地域における活動・支援 | <ul style="list-style-type: none">・ コロナ禍を経ての西東京市の高齢者・地域の変化・ 地域で今後必要になると考えること・ 今後力を入れていきたいと考えていること・ 市と協働で進めたいこと |

4 調査結果

| 対象事業所・団体区分 | コロナ禍を経ての西東京市の高齢者・介護者・地域の変化 | 西東京市で今後必要になると考えること（介護者支援、生活支援、地域） | 今後力を入れていきたいと考えていること | 市と協働で進めたいこと |
|-------------|--|---|---|---|
| 介護者支援 | <p>【介護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 施設・病院の面会制限で家族に会えなくなり、介護者が精神的、身体的にまいってしまうケースがある。 施設に入ると面会制限があるため、入所をためらっている人がいる。 <p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 行き場と居場所がなくなり、運動とコミュニケーションを兼ねていた外出習慣が減った。 家族から外出を止められている人がいた。 認知機能が低下している人が多い。 <p>【活動・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不特定多数が一か所に集まるサービス・活動はダメージが大きかった。 居住系サービスは閉鎖的になり、利用者のQOLの低下、全体的な能力低下が見られた。 感染者への訪問、感染者の受け入れは、調整事項が多く大変であった。 | <p>【介護者支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアラーの心身を支えることが重要。介護をしながら自分の体調管理まで気がまわらない人が多い。例えば要介護者が医者に診てもらおう際に、ケアラーも診てもらえることができるとよい。 介護者、介護従事者が気軽に相談できる場所が公共的にあるとよい。 若年性認知症専門の通所サービスがあるとよい。 <p>【情報提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> オレンジカフェ、介護者支援団体、認知症診断を行っている医療機関等の情報があるとよい。（認知症ガイドブックへの掲載等） 居場所へのつなぎは、専門職など実際に居場所に行ったことがある人が同行すると定着率がよい。 <p>【意識啓発】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「認知症を知る、理解する」から「受け止める、受け入れる」というところまで促していく必要がある。 | <p>【介護者支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 介護者支援活動として、会報発行、定例会、会員相互による相談、傾聴、ケア等を充実したい。 <p>【居場所、地域の拠点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 多様な居場所があることが重要。利用者で関わりたいと考えている人を受け止めたい。居場所への専門職の参画を進めたい。 地域の中心として、高齢者から子どもまでを支えたい。市民と専門職（医療職）がつながる場になりたい。また、地域の自主防災機能の強化をしたい。 <p>【介護保険サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期巡回・随時対応型訪問介護看護、夜間対応型訪問介護、24時間のサービスに力を入れたい。 施設から出て活動していただくこと、施設に外部の方を招き入れて交流することに力を入れたい。 | <p>【地域活動の活性化、活動者の連携促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と一緒に社会資源フェスティバルを行い、活動者同士をつなげたい。 市が開設したサイト「ミーツ」等も活用しながら、施設に外部の方を招き入れていきたい。 <p>【相談】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門職として、市の方と一緒に高齢の方の集まりに参加して介護相談を行いたい。 <p>【防災】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と一緒に防災活動に取り組みたい。その中で在宅の要支援者の把握をしたい。 <p>【ニーズ把握】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と協働でケアラーの聞き取り調査をしたい。ケアラーが本当に必要としていることを知りたい。 |
| 生活支援 | <p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> 精力的に活動をしていた高齢者が、コロナ禍によって活動が制限されフレイル（認知症）の傾向がみられるようになったケースがある。 転倒による骨折、会話をしなくなったことにより、声が出なくなるなどの影響もみられた。コロナ禍による外出自粛により、体幹が弱くなり、身体機能に影響がみられる場合もある。 コロナ禍によってひきこもり、閉じこもりが増加。 <p>【活動・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の方に施設に集まっていた機会が減少。 グループホームは、スタッフのストレスも大きくなった。入居者は、外出が制限され、運動機能の低下がみられた。また、家族との面会を制限した。 | <p>【生活支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> 商店が無い地域があり、買い物支援が必要。 外出支援が必要。デイサービスの送迎に使われる車は朝夕の送迎後の時間が空いている。活用できないか。 ゴミ捨てなどの手助けが必要な要介護認定者ではない高齢者へのサポートが必要。 若い方も含めて親族がいない方が入院等（手術同意、保証人）で支援を必要としている場合がある。 <p>【看取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で看取りができるホームホスピスや看取りの家を医療と看護、行政が連携して作ってほしい。 終末期介護を担う家族の負担軽減のためにも、ショートステイできる場所があるよい。 <p>【地域活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者への子どもの見守り活動等への参加促進。 活動の運営側の後継者不足、会場確保が困難。 | <p>【活動の継続、活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動を継続したい。 体力づくりやフレイル予防、脳の活性化のためにも気軽な社会参加を促していきたい。 社会福祉協議会として、法人後見を検討したい。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談機関としてより周知を図りたい。 | <p>【連携の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も、地域包括支援センターと連携したい。 困難ケースの場合は市と協働して、分担しながら支援していく形がより充実して実施できるとよい。 <p>【活動への支援、検討】</p> <ul style="list-style-type: none"> いきいきミニデイへの市からの補助など、小さい補助を多くの団体に実施してほしい。 子ども食堂だけではなく、高齢者を対象としたワンコインで食事ができるような場を作っていきたい。 <p>【介護人材確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> 潜在的なヘルパーやケアマネの有資格者に、市から呼びかけてほしい。介護人材確保について市と事業所で一緒に考えたい。 |
| 地域における活動・支援 | <p>【高齢者】</p> <ul style="list-style-type: none"> サークル活動がなくなり、介護保険サービスの利用、施設入所する人がいた。 外出が減り、社会性の部分が欠如し、生活が不活発になり、筋力が低下した人が見受けられた。 外に出ることが不安な人、家族から外出すると言われる人等があり、足腰が弱った人が多い。 <p>【活動・サービス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遠くからバスでサロンに来ていた人は来なくなった。 コロナ禍で衛生管理、換気管理をして、継続して活動を実施した。 地域活動は、緊急事態宣言時はほとんどが休止していた。活動者の体力低下や、活動者が認知症になったことで再開できない活動もある。 | <p>【活動の場】</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく通える場が重要。誰かと接して楽しく語り合えることが重要。コロナ禍でできなかったのを、復活させていくことが重要。 市が進めている短期集中予防サービスの利用終了後には、身近な地域活動へのつなぎが不可欠であり、活発になるとよい。 高齢者の孤立を防ぐために、地域活動を充実したい。 活動場所に困っている地域活動団体は多い。 <p>【活動の情報】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域での健康づくり・介護予防活動の情報を知り、提供していきたい。圏域別に整理したい。 | <p>【活動の活性化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動者がやりがいを感じる活動にしたい。楽しく100歳まで過ごせるまちづくりの一環になればよい。 学校を拠点に人がつながったり、コミュニティが広がる活動を続けていきたい。 フレイルチェックは健康寿命を延ばすことが目的であり、役に立つ活動を続けていきたい。 <p>【活動者の増加】</p> <ul style="list-style-type: none"> 男性が少ないので、男性をつなげたい。 高齢者クラブの会員を増やしたい。 活動の担い手を増やすことに努めたい。 <p>【情報集約】</p> <ul style="list-style-type: none"> 変化する地域活動の情報を得て、管理し、積み上げる方法を考えたい。 | <p>【連携の継続】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターとは連携してやってきた。地域での信頼関係を継続できるようにしていきたい。 <p>【情報発信】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市に活動報告書を出している。市から活動の情報をわかりやすく市民向けに公開してほしい。 市から地域活動団体の情報の周知を図ってほしい。 サロン活動マップは非常に良い。もっと周知すべき。 スマートフォンを活用して、自分から情報を取りに行かなくてもいいように、きめ細かく通知して情報提供できるとよい。 <p>【移動手段】</p> <ul style="list-style-type: none"> 移動手段がなくて会場まで来れない人もいるので、手助けをできる方法を市と一緒に考えたい。 |

*本表はインタビューの結果に基づき整理を行った(対象事業所・団体の確認済)